

平成26年度学校評価

1 本年度の学校評価をふりかえって

3年間という限られた時間の中で、いかにして生徒の知識・技能を高め、社会人基礎力を身に付けさせるかという課題に、教職員一人一人が高い意識を持ち、学校全体として取り組んでいる。しかし、経済構造の変化など、現在の厳しい社会情勢に対応するためには、より一層の研鑽が必要であると考えます。今後も秋田県商業教育の中心校としてその役割を果たすべく、自己評価のみならず保護者アンケートなども真摯に受け止め学校の発展に努めていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取り組み状況と成果・課題	評価	改善策
本年度の目標	キャリア教育の推進 ・職業意識の向上 ・社会への適応力・実践力の育成	・生徒の職業意識と実践力をより高めるために、まず教員自らが経済構造の変化や雇用形態の多様化などについて把握したうえで、指導を深めていく必要がある。 ・学校が行う指導内容と生徒の目指す方向を、「秋商キャリア教育」として冊子にして実践している。	A	・「社会人基礎力」を意識的に育成していけるよう、生徒や社会を取り巻く環境の変化について、常に把握しておく。
教育課程・学習指導	教科指導における、基礎・基本的な知識・技能の定着	・生徒による授業評価を活用した「わかる授業」を目指しており、シラバスに沿った充実した指導や組織的な評価が実施されている。個の学力を高めるための授業改善を推進した。	B	・各教科において、学習意欲が向上するよう、授業改善に努めるとともに校内研修の充実を図る。
学習指導	より高度な資格取得の実現に向けた個に応じた学習支援と、専門教育における新しい分野への積極的な取り組み	・コース制の特性を生かした高度な資格取得に挑戦している。また、部活動との両立を目指す生徒が多いことから、教科や学年部が連携を取りながら一層の指導充実が期待される。	B	・高度な資格取得に挑戦させるための指導を充実させるとともに、生徒一人一人の能力に応じた指導に努め、将来の職業に対する意識の啓発に努める。
進路指導	進路指導部と学年部の連携による、生徒の進路意識を高めさせる指導と面接・小論文等の指導の充実 高度な資格取得を生かした大学等への進学指導体制の整備(指定校推薦・全商推薦枠等)	・学年進行に応じた継続的な進路指導を行った結果、就職・進学とも高い実績を上げた。国公立大・有力私大に挑戦する指導や、合格後の資格取得等への指導を続けているが、早い時期から模試等を利用して全国レベルでの情報収集や学力対応が必要である。公務員希望者に対しては、早期の意識付けを図るとともに、より計画的な指導体制の構築が必要である。	B	・就職状況が上向いているとはいえ、企業訪問や求人開拓などを継続し、情報の収集と提供に努める。 ・高度な資格取得（日商簿記2級・全商英検1級等）を可能にする指導体制の確立が急務である。
生徒指導	基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、校外でも礼儀・規律・公共心・社会的マナーが守れる生徒の育成	・学年部と生徒指導部を軸とした連携のもと、日々の指導がおこなわれている。社会的マナー等で外部からの指摘を受けることがあり、「全職員による共通実践」のもと、継続した指導が望まれる。	B	・基準を明確にし、不公平感のない連携のとれた指導を徹底することで、生徒の心の成長を促す。
保健	・校内外の清掃、美化活動、教室環境の改善 ・健康・安全・防災等に関する情報提供と対応力の向上	・定期的に校内安全点検を実施し、改善できる部分は随時改修・保全がおこなわれている。防災教育には、今後ともより積極的な取り組みが必要である。	B	・校内点検を継続し、健康に関する各種パンフレットや保健だより等による情報提供および実践的な防災教育に努める。
教育相談	生徒の悩みなどに対応できる体制の整備と、スクールカウンセラーを活用した教育相談の充実	・学年部や保健・教育相談部が連携をとりながら、生徒の悩みに応じてくれたため、安心して学校生活を送ることができている。	A	・多様な生徒の実態に応じた、きめ細かな対応と適切な指導、および情報共有ができる体制を確立する。
特別活動	生徒の自主的・創造的活動に対する支援体制を確立し、地域社会への理解と貢献の意識を深めさせる指導	・学校行事や部活動等を通じて自主性・創造性が育まれている。今後は活動内容の充実と地域社会への理解を深め、貢献の度合いを高めていくことが課題である。	B	・多様な生徒が活動できる場を設定し、地域や保護者との連携が深められる事業に改善しながら、全職員による指導体制を確立する。
家庭地域	計画的なHP更新やメール配信等の活用による、迅速で広範囲な学校情報の提供および管理	・HPでは、生徒の活躍や学校行事の状況など最新の情報を提供した。一斉メール配信により非常時の連絡もできている。また、個人情報については、職員が危機感を持って管理している。	A	・HPの迅速な更新や、クラス通信・学年通信等の発行、メール配信を利用した情報発信に今後も努める。
図書	学校図書館における、多様な情報の積極的利用と蔵書管理	・「本を読もう週間」の設定や「図書館だより」の定期的な発行により、読書習慣が身に付くようになってきた。	A	・図書館利用の向上にむけて、継続指導に努める。